

令和二年度 神奈川県立よこはま看護専門学校
一般入学試験 問題用紙 国語

注意事項

- * 指示があるまでは中を見てはいけません。
- * 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- * 問題用紙と解答用紙それぞれに受験番号、氏名を記入してください。

受験番号
氏 名

*文字は丁寧に書くこと。漢字は楷書で書き、略字や殴り書きの文字は不可とする。
*問題文中から抜き出して答える問題、及び解答に字数制限の指示がある問題については、特に指示がなければ、句読点・記号等は1字に数え、指定の字数に含むものとする。

一 次の語句の意味として正しいものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

1 漁夫の利

ア 当事者が争っている最中に第三者が労せず利益をさらい取ること。

イ 魚の数を正確に数えないため利益の見積もりが不正確であること。

ウ 魚はその日によつて獲れたり獲れなかったりするので利益が一定しないこと。

エ 複数の人が同様に行動しても成果は一定ではないこと。

2 猫に小判

ア どのように優れたものでも持つ人に価値がわからないと役に立たないこと。

イ つまらないものに誰もが欲しがるものをつけて売りさばくこと。

ウ どのように良いものでも相手の望まないものを渡しても喜ばれないこと。

エ 価値のあるものとなないものは釣り合わないということ。

3 目に物を見せる

ア 急に目の前に現れる。

イ 理解できるように説明する。

ウ 思い知るようにしかける。

エ 思いがけない贈り物をあげる。

4 瀬戸際

ア 人生の最期。

イ 勝負・成否などの分かれ目。

ウ 陶器の破片。

エ 小さな島。

5 有名無実

ア 名前は付いているが、まだ完成していないこと。

イ 名前は誰でも知っているが、実績を知られていないこと。

ウ 有名だが、無実の罪に問われていること。

エ 名ばかりが立派で、それに見合う実質が伴わないさま。

二 1〜4の文の傍線部と言葉のきまりや意味のうえで同じ用法のものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 田中さんが手を挙げました。
ア 空がとても青い。
イ 電子辞書が欲しい。
ウ 今日は天気が良いが明日は雨が降るそうだ。
エ 会議がありますが参加しますか。
- 2 私には夢がない。
ア 私は逆上がりができない。
イ 私は夢を見ることが少ない。
ウ 私には貯金がない。
エ 私は彼を知らない。
腕を蚊に刺される。
- 3 ア ここは子供だけでも来られる。
イ 朝礼で先生が話をされる。
ウ 突然、父に呼ばれる。
エ この絵をみると故郷が思い出される。

- 4 困ったときは電話をください。
ア ときと場合を選ばない。
イ ときとして声を荒げることがある。
ウ 実行のときが来た。
エ 壊れたときに保証書が必要だ。

三 次の文章を読んで後の問に答えなさい。

ゴッホといえば、あの強烈な個性である。耳を切った自画像があり、^①奔放なひまわりの絵がある。「A」^②絵画を学ぶにあたり、有名画家たちの模写を数多く重ねてきた人でもあった。とくに農民を描いたミレーに入れ込み、いくつもの模写作品を残している。

欧州の絵画だけでなく、日本から^③ユニークな浮世絵も描き写していた。ミレーの「種まく人」にそっくりな人物と、日本風の梅の木が一つの画面に^④オサまる作品も、ゴッホにはある。心を惹かれた美を血肉にしていた。^⑤模倣を重ねる先に、独自の美が生まれる。そう考えると、あるいは王道を行く作品かもしれぬ。幅広い年代の肖像画1万5千点を分析した人工知能(AI)が、男性の^⑥シヨウゾウを描いた。米ニューヨークの競売に出品され、4800万円の値がついたという。

報道された絵をみると、黒っぽい背景に^⑦輪郭のぼやけた人物がいる。どこかで見たような、いや新味があるような。いくぶん^⑧ムキシツに感じるのは、AI作品だという「B」のせいだろうか。

AI画家に欠けるものがあるとすれば、ゴッホが手紙に残したような情念であろう。「どんなにできが悪くても、人間的なものなにかを表現している作品をつくりたい」「そこに無限を描くのだ」(木下長宏著『ゴッホ〈自画像〉

精神の^⑨高揚、直感、描く対象への没入……。芸術を芸術たらしめる心の働きは人間だけが持つ「C」だ。しかし、そんなふう書きながらも、よぎってしまう^⑩ギモンがある。本当に？

(二〇一八年十月二十九日付け『朝日新聞』『天声人語』より)

問1 傍線①～⑩の漢字は読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に直しなさい。

問2 「A」に入る接続詞として適切なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア したがって イ しかし ウ つまり エ 例えば

問3 「B」に入る語句として適切なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 既視感 イ 人生観 ウ 先入観 エ 親近感

問4 「C」に入る語句として適切なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア べき イ はず ウ こと エ よう

四 次の文章は、『毎日新聞』の「社説 終末期の延命治療 意思を伝えておく大切さ」(二〇一九年九月二十三日付け)である。この文章を読んで後の問に答えなさい。

延命治療などをめぐる希望を、元気なうちに文書に残しておくことが大事だと考える人が目立っている。

厚生労働省が昨年まとめた国民の意識調査によると、人生の終末期にどんな医療を受けたいのか、あるいは受けたくないかを事前に文書に記載しておくことに66%が「賛成」と回答した。

想定されるのは、認知症や病気の進行で患者本人が意思表示できなくなるケースだ。

厚生労働省の意識調査では、実際に文書を作成した人は賛成と答えた人の8・1%にとどまった。少しずつ増えているものの、まだ「A」だ。

愛知県半田市は、終末期医療についての希望を記載する「^①事前指示書」という文書の作成を市民に呼びかけている。

病気が回復する見込みがない時に延命治療を望むのか望まないのか、意思表示できなくなった時に自分に代わって医療やケアに関する判断を委ねる人は誰か。これらを記入し、保管する。

文書の作成は、本人の明確な意思に基づくことが大前提だ。いったん作成しても、家庭環境や病状の変化によって気持ちは揺れ動く。その時には「事前指示書」を書き直すよう勧めている。

半田市の担当者は「文書作成の過程で家族など周囲の人に自分の気持ちを伝えることができる。また周囲の人の考えを知るきっかけにもなっている」と言う。

家族だけでなく医師、看護師らとの話し合いも大切だ。ひと口に延命治療といっても、人工呼吸器の装着や、*胃ろうでの栄養補給、心臓マッサージなどさまざまだ。医療機関が本人や家族に正確な情報を提供する必要がある。

医療機関や介護施設の中で、^②こうした取り組みを積極的に進めている所はまだ少ない。

厚生労働省の調査でも患者本人と「十分な話し合いをしている」と回答した医師は3割に満たない。

今後は独居の高齢者が一層増え、2040年には高齢者の女性の4人に1人、男性は5人に1人が1人暮らしになると予測されている。

頼れる身寄りがいない場合、終末期医療の意思決定をどう支援するのか。これも大きな課題だ。

*注 胃ろうⅡ口から食事をするのが困難になった人が胃から直接栄養を摂取するための医療措置

問1〔A〕にはいる語句として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 多数派 イ 少数派 ウ 未知数 エ 大多数 オ 反対

問2 傍線①「事前指示書」に記入する内容を具体的に述べた一文を問題文中より抜き出し、そのはじめと終わりの5字を答えなさい。(5字には句読点を含まない)

問3 傍線②「こうした取り組み」を具体的に述べた部分を20字以上25字以内で抜き出し、そのはじめと終わりの5字を答えなさい。(5字には句読点を含まない)

問4 次の各文の中から、問題文の内容と合うものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 今後は独居の高齢者が増加するので、終末期医療の意思決定をどう支援するかが大きな課題となる。
- イ 延命治療には人工呼吸器の装着や胃ろうでの栄養補給、心臓マッサージなどいろいろな種類があるので、どの治療を希望するのか事前に文書に書くべきだ。
- ウ 事前指示書の作成は本人の明確な意思に基づくことが大前提で、いったん作成したら書き直すべきではない。
- エ 認知症や病気の進行で意思表示できなくなる恐れがあるため、終末期の延命治療などの希望を文書に残しておくことが大切だ。
- オ 厚生労働省の意識調査によると人生の終末期にどんな医療を受けたいか、受けたくないかを文書に記載している人が66%いる。

五 次の文章を読んで後の問に答えなさい。

科学の外に広がる「未知の世界」

大学に職を得て赴任した頃の頃、研究室の教授に「自分の分野について何でも知っていると顔をする専門家は信用するに足らない。どこまでが分かかっていて、どこからは分かかっていないことなのか、きちんと説明できるのが本当の専門家だ」と言われたことを、今でも印象深く憶えているが、科学である程度「分かっている」と言える領域の外には、広大な「未知領域」が実際には存在している。そのことをこの生物分類の歴史は端的に物語っている。当たり前前のことであるが、現在の科学が世界のすべてを把握している訳ではない。顕微鏡が考案されれば、今まで見えなかったものが見えてくる。^{*} シークエンサーが発明されれば、顕微鏡では見えない遺伝子に刻まれた生物進化の痕跡が見えてくる。そういった認識できる情報が増えれば増えるだけ、それに基づいた科学の常識、それが支配できる領域も変わっていく。

しかし、現状の科学で認識できないことが、必ずしもこの世に存在しないことを意味しないのなら、では一体、何が「科学的」で、何が「非科学的」なものなのだろうか？ UFOや超能力や地底人だつて、将来的に科学になる可能性はないのだろうか？ ^{*} レーウエンフックも、^① かつて「魔法使い」と言われていたそうではないか？

実は、そうなのだ。^② これは非常に厄介な問題であり、ある意味、本質的な問いなのかも知れない。現在、科学の支配が及んでいない未知な領域にも、間違いなく「この世の真実」は存在している。実際、科学の最先端で試されている仮説の数々も、そういった未知領域に存在しているとも言えるし、長い歴史は持つものの、西洋科学の体系には必ずしも収まっていない東洋医学なんかも、少なくとも部分的にはそうだろう。また、「似非科学」と非難めいた名称で呼ばれている分野も、その一部はこの領域の住人と言って良い。

そういった「科学」とも「非科学」ともつかない「未知領域」は、この世にかなり広大に広がっているし、そこには有象無象の海の物とも山の物ともつかないようなものたちが蠢^{うごめ}いている。それらのうちのいくつかは将来、科

学の一部となっていくこともあるだろうが、だからと言って、味噌も糞も一緒に、本当に何でもありで良いのか、これもまた疑問である。

どこまでが「科学」か

この難問に対して、とても科学的な人たちは「科学的に実証されたものだけを信用すべき」という考え方をとり、それが科学者としてとるべき態度のように評されることも多い。私自身はそういった石鹼せっけんの香り漂うような、清涼感溢れる考え方に、どこか「A」を持ってしまおう方ではあるが、「似非科学」と呼ばれるような胡散こさんの香り漂うものに傾倒する危険性も軽視できないことは理解している。

その最大の問題点は、実証されたものに比べて、実証されていない領域ははるかに大きく、一旦、根拠のはつきりしないものを受け入れる精神構造ができてしまうと、どこまでもその対象が広がり、根拠なき後退と言うか、根拠なき前進と呼ぶべきか、そのような「果てしなく飛躍する論理」とでも形容されるべきものに飲み込まれてしまいかねないことである。根拠が薄弱なものに対して、信じる／信じない、の二者択一や、「そうであつたらいいな」的な、安易な希望的観測を持つて傾倒していくことはやはり危険なことである。特に根拠を問うことが許されないような「神秘性」を強調するものには警戒が必要であろう。

しかし一方、現在の科学の体系の中にあるものだけに自分の興味を限定してしまうことも、真の意味で科学的な態度ではないはずである。科学の根本は、もつと単純に自分の中にある「なぜ？」という疑問に自らの頭と情熱で挑むものではなかつたらうか。その興味の対象が、現在「科学的」と呼ばれているかどうかなど、実に些細ささいな問題である。

科学の歴史はこれまで述べてきたように、未知領域の中から新たな科学的真実が次々と付け加えられてきた歴史でもあり、それは挑戦と不確かな仮説に満ちたものだった。何を興味の対象としているかによつて、科学と似非科学との間に境界線が引ける訳ではないのだ。

科学と似非科学の境界線

もし、科学と似非科学の間に境界線が引けるとするなら、それは何を対象としているかではなく、実はそれに関わる人間の姿勢によるのみなのではないかと私は思う。「非科学的な研究分野」というものが存在するのかどうかは私には分からないが、「非科学的な態度」というのは明白に存在している。科学的な姿勢とは、根拠となる事象の情報がオープンにされており、誰もが再現性に関する検証ができること、また、自由に批判・反論が可能であるといった特徴を持っている。

一方、根拠となる現象が神秘性をまとつて秘匿されていたり、一部の人間しか確認できないなど、再現性の検証ができない、客観性ではなく「生命は深遠で美しい」のような誰も反論できないことで感情に訴える、批判に対して答えないあるいは批判自体を許さない——そういった特徴を持つものも、現代社会には分野を問わず（政治家等も含めて）、あまた存在している。

この二つの態度の本質的な違いは、物事が発展・展開するために必要な資質を備えているかということである。科学的と呼ばれようが、非科学的と呼ばれていようが、この世で言われていることの多くは不完全なものである。だから、間違っていること、それ自体は大した問題ではない。間違いが分かれば修正すれば良い。ただ、それだけのことだ。

しかし、そういった修正による発展のためには情報をオープンにし、他人からの批判、つまり淘汰たうたあつ圧のようなものに晒さらされなければならない。最初ほとんどもない主張であつても、真摯に批判を受ける姿勢があれば、修正できるものは修正されていくだろうし、取り下げるしかないものは、取り下げられることになるだろう。この修正による発展を繰り返すことが科学の最大の特徴であり、そのプロセスの中にあるかどうかだが、科学と似非科学の最も単純な見分け方ではないかと、私は思っている。

*注 シークエンサーⅡ生物の持つ遺伝子配列を決定できる機器または技術。レーウエンフックⅡオランダの科学者。歴史上はじめて顕微鏡を使って微生物を観察した。 胡散Ⅱ怪しいさま。不審なさま。

問1 傍線①「かつて「魔法使い」と言われていたそうではないか？」とあるが、なぜ筆者はそのように記述したか適切な理由を述べたものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア すばらしい顕微鏡を作る技術を魔法使いと表現した。
- イ 顕微鏡を使って多くのことを発見したことを魔法使いと表現した。
- ウ 当時の科学では存在しないとされたものを顕微鏡を使い発見したことを魔法使いと表現した。
- エ 顕微鏡を使って一心不乱に研究する姿を魔法使いと表現した。
- オ 顕微鏡が考案され、それを即座に作って今まで見えなかったものを見えるようにしたことを魔法使いと表現した。

問2 傍線②「これ」とは何か。問題文中から30字以内で抜き出し、そのはじめと終わりの5字を答えなさい。(5字には句読点を含まない)

問3 「A」にはいる語句として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 徒労感 イ 存在感 ウ 違和感 エ 達成感 オ 既視感

問4 傍線③「非科学的な態度」として挙げられている内容を次の中から三つ選び、記号で答えなさい。(完答のみ可)

- ア 根拠となる事象の情報がオープンにされており、誰もが再現性に関する検証ができること。
- イ 主観的で誰も反論できないことで感情に訴える。
- ウ 自由に批判・反論が可能である。
- エ 批判に対して答ええない、あるいは批判自体を許さない。
- オ 再現性の検証ができない。

問5 本文中で筆者が述べている内容と一致するものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 科学の歴史は未知領域から新たな科学的事実を見つけ出すことだが、根拠のはっきりしないものを受け入れ、飛躍する論理に飲み込まれてしまう危険性もある。
- イ 科学と似非科学の違いは、現実には存在しない非科学的な研究分野か、根拠となる事象がオープンな科学的な研究分野ということである。
- ウ 現状の科学で認識できないこと、つまり未知領域の存在は非科学的なものである。
- エ 科学的な態度とは情報をオープンにし、批判を受け入れ、間違いが分かれば修正していくことである。
- オ 科学で分かっている領域の外にかなり広大な未知領域があり、その中にだけ真実は存在している。